



真岡市立中村中学校 学校だより

編集・発行 教頭 三田紀代美



【自主学習を考える】

◇教育基本法は教育の原点

前文には、「個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する」とあります。

子どもたちの10年後、20年後は、どんな世の中になっているのでしょうか。学校(教職員)は、彼らが社会に出た時に必要な力を身につけさせることが仕事ですから、しっかりと「時代」の認識を持たないとはいけません。子どもたちが自己実現を目指すために、彼ら自身もまたそういう時代を理解しなければならないと思います。

子どもたちにとって、学校が真の「学ぶ場」になっていて、楽しいとかもっと学びたいとか、興味・関心を持てば、さらに家庭でも学びを実践します。そこには、「家庭学習＝宿題」という概念ではなく、「勉強は面白そうだ」、「もっと追求したい」、さらには「将来はどうしようか」など、「自発的な学び・思考」が生まれてくるのです。今の時代、このような「転換」が必要だと痛感しています。本気で転換すべき時にきているのだと考えます。

◇宿題代行屋が人気

夏休みを前に、子どもたちにとっての「課題」(宿題)について考える機会がありました。それは、「宿題代行屋が人気」というネット上の記事です。

「課題」(宿題)は試練だと感じている子どもたちも多く、期間内に終わらないことも少なくありません。その理由は、多すぎるから、怠けてしまったから、時間がなかったからなど、それぞれあるのですが、終わらなかった子どもたちは、2学期になっても昼休みや放課後に「課題」(宿題)に取り組むことになり、夏休みの負の遺産を引き続き2学期も背負うことになります。期間内に終わった子どもたちは、一種の達成感を感じたり、学力が向上したり、「成長」という成果を得る場合もあります。

ネット上では、宿題代行屋が人気のようです。課題(宿題)の本来の意味や目的を考えると、本末転倒なサービスであるのに、人気を集め利用する人が後を立たないといえます。その背景には、学校以外に塾の宿題があり、子どもにとっては相当な量となり、学力向上につながるとはいえ、結果的には膨大な量の宿題が子どもを追い詰めている現実もあるようです。保護者の立場からは、学校から「家の人が宿題を見てあげてください」と指示されたり、「宿題をさせないのは親の責任」と考える風潮があったりすることも影響していると思われます。日々、家事や仕事に追われる親にとって、子どもの勉強を見るのは時間的にも精神的にも、肉体的にもハードなのかもしれません。

◇夏休みは個々の学習法を確立する機会

学習の基本である読書や掛け算の暗記は、夏休み中に毎日行うのは非常に有効だと言われます。こうした学習によって、好奇心が刺激され、普段とは違った毎日のリズムの中で、それぞれの学習の仕方を確立できる可能性も高いといわれています。夏休みのような長期の休みには、「自分のことは自分で、計画性を持って行動する」ことの大切さを学び(教え)、習慣化していくことが、子どもを大きく成長させていくのです。夏休みを前に、「家庭学習」について再考してみてもいいのではないでしょうか。

◇課題(宿題)＝家庭学習？

私たち教職員は、授業改善とともに家庭学習の在り方についても改善を図っていかなければなりません。なぜならば、「宿題」＝「家庭学習」と考える生徒が案外多いからです。ここで教職員が考えなければならないことは、何のために宿題を出しているのか、ということです。授業の延長なのか、授業の復習や予習のためか、宿題の効果はあるのか、など、子どもたちの基礎の定着や学力向上に有効に機能しているのか真剣に検討すべきです。

学校では、長く続いてきた習慣のように、長期休業中には「生徒に何かをやらせない」という認識が根底にあります。保護者からも、「課題(宿題)がないと、うちの子は勉強しない。」などと、これも習慣のように反対意見が飛び込んでくるかも知れません。すると、「形だけでも宿題をだしておこう・・・」と考える教職員も少なくはないのです。これまでの経験から、宿題を出したことによって(経費もかけた)学力は向上したのだろうか、基礎は定着したのだろうか、家庭学習は習慣化したのだろうか、と考えるとき、答は「？」である教員が多いと思います。今年度は、夏季休業中の課題(宿題)の成果等について、検証をしていきたいと考えています。

◇本校の現状と取組

H30年度、「子どもの自発的な学習のために課題(宿題)はどうあるべきか。」について、教職員による協議を行いました。結果として、目的のある課題(宿題)は必要だということになり、R元年度はMy tomorrowを活用した自己スケジュール管理に重点を置き、家庭学習の定着を図っていくこととしました。

また、R元年度とちぎっ子総合学力調査アンケートから、①授業中の「振り返り」、②各教科の授業での感心・意欲(やらされている感)、③意見を発表する態度、④自己有用感(学校、学級、家庭)等に課題が見られました。これらの課題を踏まえて、家庭と連携しながら学習、生活指導の改善を図っていきたいと考えています。

《資料》 「自ら進んで学ぶ子ども」に育てるコツ (田宮由美さん All About「子育て」ガイド)



- 1 親がイキイキと楽しく学んでいる姿を子どもに見せる
 - 2 集中している時は、中断することなく取り組ませる
 - 3 親も興味を持ち、子どもに教えてもらう
 - 4 「命令する」言葉ではなく、「考えさせる」言葉を使う
 - 5 「疑問に思う」「不思議に感じる」言葉を投げかけ、「好奇心」を湧き立たせる
- 親子で夢中になれる学びの時間をつくろう！
* 親=先生と解釈したい。

(校長 菊地 諭美)

【夏季休業中の日直を置かない日(閉庁日)】

・8/13(火)～8/16(金) ・8/26(月)～8/28(水)

学校からの緊急連絡等は、一斉メール配信を利用します。生徒(保護者)からの緊急連絡は、学年主任や学級担任、部活動顧問などの携帯電話とします。ご協力をお願いいたします。

【サンドバークミドルスクールとの交流活動】

7月23日(火)～30日(火)サンドバークミドルスクールから、生徒20名、引率6名の訪問団がやってきます。24日は歓迎式典、27日は真岡の夏祭りなどの交流活動があります。意義のある交流活動にできるよう、計画や準備を進めているところです。ホストをお引き受けくださったり、夏祭りのご協力をいただいたり、お力添えをいただきます保護者の皆様および関係各位に、心より感謝申し上げます。

【PTA役員の紹介】

今年度のPTA役員の皆様です。1年間、よろしくお願いいたします。会員の皆様には、役員の方々リーダーシップのもと、本校の生徒たちのために学校の諸活動へのご協力をよろしくお願いいたします。

- ◎会長 宮岡 聡
- ◎副会長 椿 浩明 永嶋 昌和 鶴見秀一郎 三田紀代美(教頭)
- ◎幹事 亀田 研二 佐藤 進
- ◎監事 潮田 芳恵 古口 寿子
- ◇研修委員長 田崎 匡亮 ◇広報委員長 卯月 正見 ◇厚生委員長 篠崎 順子 (敬称略)

【表彰の記録】

- サッカー 郡市サッカー協会長杯争奪中学生サッカー大会 2位トーナメント 優勝
- 野球 真岡市中学生野球大会 第3位
- 空手 全日本空手道連盟練会栃木県選手権大会 優勝 村石 成琉
- 空手 栃木県空手道選手権大会 準優勝 亀森 瑞貴 (全国、関東出場決定)

◇県春季体育大会各種大会結果

- 陸上競技 1年男子走幅跳 第2位 石見だいや
3年男子200m 第3位、100m 第7位 石川 桂一
3年女子100m 第4位 米田凜音
1年男子1500m 第4位 小倉 哲也
2年男子100m 第8位 伊澤 翔
- 野球 2回戦進出
- 卓球 女子団体 2回戦進出
男子シングルス 2回戦進出 坂本 柊真
女子シングルス 3回戦進出 杉本 葵 1回戦敗退 野澤 愛梨
- 水泳 3年男子200m個人メドレー 第1位 直井 光
1年女子200m個人メドレー 第1位 金田 沙弥

◇県通信陸上競技大会結果

- 3年女子100m 第4位 米田凜音
- 共通男子200m 第3位 石川 桂一
- 2年男子100m 第8位 伊澤 翔
- 1年男子1500m 第5位 小倉 哲也
- 共通女子4×100mリレー 5位 伊藤莉緒奈、小川彩、平石遥菜、米田凜音